

# 職能科通信 18号

2013年1月発行

職能科通信

検索

〒243-0121  
神奈川県厚木市七沢 516  
神奈川リハビリテーション病院  
職能科  
TEL&FAX 046-249-2575

## 在宅雇用での就職！おめでとうございます

昨年末、職能科の在宅雇用支援を受けられた利用者8名の方が、在宅雇用で就職されました。UT ハートフル株式会社様に6名、ジョブサポートパワー株式会社様に2名です。皆さん、週30時間就業での完全在宅勤務です。

この8名の方々は、頸髄損傷、脳性まひや神経難病などの重度の身体障がいにより、移動が不自由なため電動車いすを使用し、ホームヘルパー、訪問看護や訪問リハビリテーションなどの在宅サービスを活用して暮らしています。通勤が困難で、連続的に1日8時間就業が難しい重度身体障がい者にとって、在宅で仕事ができることは極めて有効な就業形態です。

今回就職されたYさんへの支援は、神奈川県障害者就職促進委託訓練eラーニングコースを受講後、職能科での在宅訓練等の支援を経て、神奈川労働局・ハローワークとNPO 障がい者就業・雇用支援センター(東京都千代田区)とのチーム支援(写真1)、就労移行支援事業所Do-will(東京都世田谷区)での在宅IT講習の受講と、多くの支援機関との連携によって進め(写真2)、職能科はコーディネートの役割を担いました。そこで、2月12日、職能科、神奈川労働局と神奈川障害者職業能力開発校の呼びかけで、Yさんの在宅雇用支援報告会を関係機関を集めて神奈川労働局において行ないます。

職能科が在宅雇用支援への取り組みを始めて5年が経過しました。今回の8名を含め、計15名の方が在宅雇用で就職されました。重度身体障がい者の在宅雇用の定着支援として、病院機能を有効活用すべく、健康・生活・仕事のトータルサポートをしていきます。



写真1 支援機関との面談



写真2 行政、支援機関との打合

### 「障害者雇用促進セミナー」

重度身体障がい者の在宅雇用の啓発・啓蒙について、かねてより神奈川労働局に相談してまいりました。昨年11月29日、神奈川労働局主催の障害者雇用セミナーにおいて、重度身体障がい者の在宅雇用をテーマとした講演を企画していただきました。講演では株式会社沖ワークウェルの津田社長と在宅勤務社員の曾根氏が登壇され、在宅雇用の実際とワークウェルコミュニケーションのデモンストレーションをしていただきました。また、パネルディスカッションでは神奈川障害者職業能力開発校の澤田校長にもご登壇いただき、当職能科松元がコーディネーターをさせて頂き、障がい者雇用での「在宅雇用」について意見交換をいたしました。

さらに、株式会社沖ワークウェル見学会を2回行ない、6社、1就労支援機関の延10名が参加されました。採用、雇用管理、教育・評価、仕事の切り出し等が話題となりました。

これからも神奈川県において、重度身体障がい者の在宅雇用が推進されるよう、労働行政に貢献・協力してまいりたいと思います。

(松元 健)

# 能力開発部門の紹介

今回は、能力開発部門について紹介いたします。能力開発部門では、覚醒や認知機能を高める、生活リズムの確立、体力づくりなどを目的に、安定した地域生活を送る支援をおこなっています。

朝起きて、きちんと身支度をして休まずに職能科まで通い、彫金や事務作業などを通して身体や脳を動かす。そして職員や他の患者さんとコミュニケーションを取るなどは生活リズムの調整や社会性を高めます。

作業課題は、彫金(金工)や手芸(編み物やタピボンなど)、園芸、組立(ボールペンやテーブルタップなど)、事務作業(物品請求書や Word・Excel)などです(職能科 Web ページの職能科通信のバックナンバーに彫金や手芸などの作業の内容が掲載されていますのでご覧ください)。

また、1人で取り組める作業や進捗状況が目に見える課題を設定し、達成感を得られるようにする。そしてやる気や意欲、耐久性、持続力の向上に繋がられるように支援するため患者さんの状況に合わせて課題を設定しています。(太田 博子)



写真3 能力開発部門の作業

## 平成24年度就労支援の実績

職場内リハビリテーション実施人数	
2012年11・12月の人数	8名
2012年4月からの累計人数	13名

就職・復職者の人数		
2012年11・12月の 就職・復職者	新規就労	7名
	復職	4名
2012年4月からの累計	新規就労	15名
	復職	19名

## 職能科の訓練 —組立作業—

職能科では手指の巧緻性や認知機能の向上、作業耐性の向上等を目的に組立作業を訓練で行っています。組み立てるものはボールペンやテーブルタップ、レゴブロックなどが中心です。ばらばらになった部品から完成品が出来上がるまでに、注意力や記憶力、遂行能力といった基本的な能力や、工具の使用法、細かい部品の取り扱いに関する巧緻性を一通り確認することが出来ます。組立を行う時は、あらかじめ手順を口頭で説明したりモデリングを行いやり方を確認していただきます。組み立ての過程で説明通りの手順や指示が理解できているかもチェックします。組立を行う際は時間計測をすることもあり、指定数を作るまでにどれくらい時間を要するか、また時間内でいくつ組み立てることができるかを計測します。遂行能力や巧緻性などの向上によって組立て時間を短縮することも可能です。

慣れてくると30分継続でひたすら作業を行うことも。長時間集中して作業できるか、という点も重要なポイントです。(植西 佑香里)



写真4 テーブルタップ組立